

## グラスゴー気候合意

1. 効果的な気候行動及び政策立案のためには、利用可能な最良の科学が重要であることを認める。

3. 人間活動がこれまでに約摂氏 1.1 度の温暖化を引き起こしていること、影響が既にすべての地域で感じられていること、また、パリ協定の温度目標達成と統合的なカーボンバジェットが今や小さく、急速に枯渇していることに、警告と最大限の懸念を表明する。

21. 気候変動の影響は、摂氏 1.5 度の気温上昇の方が、摂氏 2 度の気温上昇に比べてはるかに小さいことを認め、気温の上昇を摂氏 1.5 度に制限するための努力を継続することを決意する。

22. 世界全体の温暖化を摂氏 1.5 度に制限するためには、世界全体の温室効果ガスの排出量を迅速、大幅かつ、持続可能的に削減する必要があること（2010 年比で 2030 年までに世界全体の二酸化炭素排出量を 45% 削減し、今世紀半ば頃には実質ゼロにすること、及びその他の温室効果ガスを大幅に削減することを含む。）を認める。

23. また、このためには、この決定的な 10 年間に、利用可能な最良の科学的知見と衡平性に基づき、各国の異なる事情に照らした共通だが差異のある責任及びそれぞれの能力を反映し、持続可能な開発と貧困撲滅のための努力の中で、行動を加速させる必要があることを認める。

29. パリ協定第 3 条並びに第 4 条 3、4、5 及び 11 を想起し、異なる国情を考慮しつつ、2022 年末までに、パリ協定の温度目標に整合するよう、必要に応じて各国の国が決定する貢献における 2030 年目標を再検討し、強化することを締約国に要請する。